

## 谷川岳 西ゼン スキー

日程:2008年4月12(土)

メンバー:L 白土(記)、菊地、西村、  
鈴木

昨年の秋に沢登りで遡行したルートスキーで滑走してきた。すでに雪庇も落ちきっており谷底はデブリで埋め尽くされて快適な滑降は出来なかったが、源頭部のアイスバーンや下部の素足渡渉など色々なシチュエーションがあって楽しかった。

行程:

4/12(土)元橋 5:30~9:20 平標山~10:00 第二スラブ落ち口~11:30 仙ノ倉谷~12:20 群大ヒュッテ~13:50 土樽駅

1/25000 地形図:土樽、三国峠

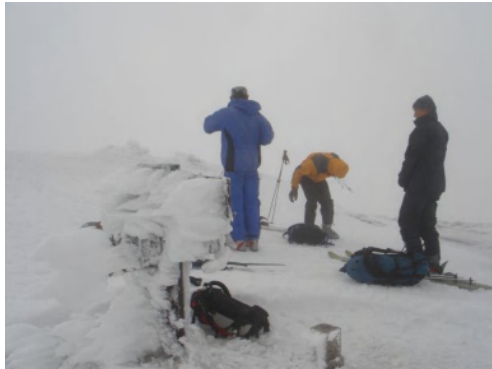
前夜に元橋の平標山登山口駐車場にテントを張って寝た。朝起きると曇っており、上のほうはガスがたちこめている。別荘エリアの奥からシールを着けて林道を歩く。左の尾根に取り付き樹林帯をひたすら登る。稜線では平標山の家の上あたりに出た。ガスがかかり視界は100mほどだ。山頂でも風が強い。最近雨が降ったと思われ、道標に氷がエビのシツポのように成長していた。シールをはがして仙ノ倉岳とのコルに滑り降りる。視界が悪く無木立なので斜面がどのように広がっているのかまったく分からない。雪面は氷化し、小さなツララが地面から生えているようになっている。エッジはほとんど効かず、横滑りで滑るとそのツララがガリガリと雪面から剥がれてバリバリと斜面を落ちていく。今までに経験したこと

ない斜面だ。このあたりの雪の下は一面笹原であるため木は1本もなく、晴れて視界が良く、雪面がザラメであればさぞかし気持ちの良い滑降が出来るであろう。しばらく降りると少し視界が開けてきて、第二スラブの滝の落ち口が見えてきた。近づくと滝の流れが出ていた。ここはスキーを脱いで左岸を降りる。そこから下は一面デブリの世界であった。ブロック化した全層雪崩の雪の塊がずっと続いている。スキーで滑れそうなところを下ってゆく。第一スラブあたりも一面デブリランド。東ゼンの二俣周辺では雪崩が谷底を削り取って、氷河のように谷底がえぐれている。デブリ末端から下ではわずかにスキーでターンできる場所があった。仙ノ倉谷は完全に流れが出ていた。右岸を滑って降りるが、崖で行く手を阻まれて渡渉することになった。良さそうな渡渉点を探したが見当たらず、仕方なくスキーを担いでスキーブーツのシェルだけを履いて渡る。水量は膝から腿くらい。さすがに水は冷たい。左岸を滑って下り、吊橋下の堰堤ダムから林道は除雪してある。何とか林道脇を滑っていくが、いつものゲートからはあきらめて林道を歩いた。土樽駅に着いて山行終了。ほとんど待たずに下り電車に乗れた。これを逃すと4時間待ちだ。越後湯沢駅から路線バスに乗って元橋に戻った。

次の日は万太郎本谷を滑る予定であったが、今日のデブリと渡渉からすると明日はさらにひどくなるのが予想されるので中止とし、まんてん星の湯に入って帰路に着いた。

沢登りとスキーで同じルートに行くのはとても新鮮だ。同じ場所でありながらまったく違う世界であり、冬はどうなっているのだろうか

興味があり計画した。スキー滑降自体はほとんど楽しめなかったが、この好奇心は満たされて楽しい山行であった。雪庇の落ちたこの時期を敢えて選んだが、予想以上にデブリが



平標山 山頂

多くて流れも出ていて難儀した。快適な滑りを求めるなら 3 月上旬が適していると思われるが、雪崩に遭遇しないための戦略が必要となる。



第二スラブ落ち口は左岸を歩いて下る



デブリランド



仙ノ倉谷の渡渉



土樽駅に到着



電車で越後湯沢駅へ